

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

国府の里

日付

平成20年1月22日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員

在宅介護経験9年

評価調査員

在宅介護経験14年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

グループホームという介護事業所が、現行の諸施設の中、現段階では認知症ケアに最も有効で期待できる施設と言われている。しかし、だからと言ってグループホームが万能であるとは言えないと思う。同種の障害を持つ者の集団は良い面もあれば、必ず問題点も出てくるだろう。こういったマイナス面を補い、補うだけではなく双方により寄り多く得られる形にしているのが、ここでは事業主体の保育園児との交流ではないだろうか。核家族化が益々進み、家族の形が崩壊していこうとする中、「同居」ではないが、「頻繁に馴染みの年寄りと子供が時を共に過ごす事」は現在の歪みの修正に寄与しているだろう。確かに他のホームでも、園児・生徒等の交流は良く見られる。しかし、大半は集団と集団の交流に終わり、このホームのような直接的な触れ合いは少ない。とるけるような眼差しで子供達を見る利用者・キラキラ輝く顔つきで話しかけている子供達等の写真から、見る者の想像は色々膨らんでくる。ホームの廊下の共同合作の「落葉のレリーフ」からもワイワイ・ガヤガヤの音が聞こえてくるようだ。子供達が身近に居て年寄りが嬉しいだけでなく、子供達も「人間が年を取る事」を知るチャンスともなる。子供も含めて、色々な人が出入りし、コミュニケーションをとり、可能な限り家に居るような普通の暮らしができるなら、グループホームも認知症ケアにふさわしい理想的なものになるような気がする。このホームはこのような形に、より近付けるグループホームと思う。

又、管理者は利用者本人・家族との信頼関係を何より大切に思っている。「ここに私が居たら安心して貰える。あなたに任せとったら大丈夫と思ってもらえる。あんたが言う事じゃけえ本当なんじゃろうと思ってもらえる」こんな関係を築き、明るく楽しい日々を願っている。そして、その為にもその人のプライドを大切に声掛けで、自立した生活の為の色々な活動を支援しようとしている。職員の巧みな話術に釣られて、一生懸命家事や楽しみ事・計算ドリルに挑戦する皆さんの姿には感心させられる。

以上のように、しっかりとしたスタンスと目標を事業所全体として持ち、その上に立った「自立した生活」「やりがい・生きがいを感じられる暮らし」をスタッフが支えているグループホームと思う。

特に改善の余地があると思われる点

利用者が年数を経るに連れて重度化し、現在各々綴られているライフスタイルヒストリーが役立つ時が来るかも知れない。この取り組みを更に充実したものにして頂きたい。
家族・近隣の人達・ボランティアさん等の応援の輪を少しずつ広げてみては如何でしょうか。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：改善項目は特にないが、目指そうとする事を今以上に手の届く、具体的なものに職員間で話し合い、掲げてはどうだろうか。</p> <p>2、全体的に見て…：「仲良くお互いが支え合えるような傍に居ます。あなたがそこに居て下さる事が嬉しいと誰もが思い合って暮らせるホーム、そんなホームを私達は目指しています」と、理念が掲示されており、管理者からはこの理念を少し噛み砕いた話を、又職員からはリビングルーム等で実践している姿を見せて貰った。利用者は積極的に洗濯物を干したり畳んだり、料理の盛り付け・お盆拭き等家事に精を出している。「未だ出来る事はないだろうか？」と職員はアンテナを張り回し、上手い声掛けで意欲を起こさせている。ともすれば楽な方へ傾きがちな人にもあの手この手で誘ってみようとしている。</p> | | |

II 生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：ハード面についても、それぞれのユニットで色々な配慮が見られ、ここでの生活が感じられる。改善項目もない。</p> <p>2、全体的に見て…：1ユニット毎、玄関も別々にある単独型の形態のホームだが、鍵が掛かっていないので隣へ自由に遊びに行く事も出来る。それぞれ雰囲気も違っているし、食事の献立も別々なので、お互いおすそ分けもあり「お隣さん」の付き合いが展開されている。そのユニットの住人の特徴や好みの違い、状況の違い等で一概には言えないが、それぞれに合った場作り・人間関係作りが出来上がっているように思えた。入居したばかりの〇〇さんに対して特別ノートを作って対応を探ったり見守りも厚くしているが、同時に「あの人がばかり」の思いの人へも配慮している。</p> | | |

III ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にした整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：自主評価では改善項目として挙げてはいないが、日々の暮らしの中では常に見直し、更により良いケアを目指そうと努力している。</p> <p>2、全体的に見て…：「このホームに辿り着くまでのその人の歴史や人間性を知りたい」として、入居時及び入居後、本人や家族から聞き取った「ライフスタイルヒストリー」を各々作っている。開設2年余りで出来ている所は数少ない。こういった実践と情報の共有は一人ひとりをじっくり見つけ、その人の真相に迫る足掛りとなるかもしれない。入居後のトピックス的な出来事や言葉をこのヒストリーに続けていけばさらに有効な取り組みとなるだろう。このような努力の上に「今出来ている事は出来る限り持続させて貰いたい」と職員はその人に見合った色々な仕掛けや支援をしている。「自分が未だやれる事がある。それを期待してくれる人が居る」と感じて貰えるよう、心打つようなやり取りも聞かれた。</p> | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 災害対策 | | |
| 33 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 34 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 35 | 運営推進会議を活かした取組 | | |
| 36 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 37 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：運営理念やこのホームの概要・日々の暮らしの様子等、地域社会に対し、広報誌等発行する事を考えている。地域や利用者の家族に対して、可能な限り情報を伝達し、状況によってはリスク面も理解し、協力が得られる状態にしておく事は、より強い絆となるだろう。</p> <p>2、全体的に見て…：事故対策として、ヒヤリハットの報告を些細な事象から報告するようにし、原因・結果・対策と検討し続けている。こういった地道な努力の積み重ねが直接サービスの質の向上に影響しているのだろう。又、家族との交流では、家族同士が会い話し合う場を準備している。今後少しずつ発展させ「家族会」としての機能も高められるようにしたい。「家で見ていたらこれ程の事はとても出来ないのに、ここではよくしてもらえて…」「あっちこっちに連れて行ってもらえて…」等の感謝の言葉が家族からよく出ているようなので実現は真近かだろう。</p> | | |